




2016年1月24日カナダのバンクーバーに着いた。空港ではホストマザーが温かく迎えてくれた。ホストマザーの車に乗り、空港の外へ出るとそこは日本とは違った未知の世界だった。車は右側通行で、日本とは一味違ったようなカナダの風景が私を出迎えてくれた。私の頭の中には今もカナダ

での多くの思い出が詰まっている。カナダでの多くの思い出と経験が私を大きく成長させてくれた。その中でも大きな出来事となったことを書いていく。あれは5月の中旬だったと思う。学校の帰りにホストマザーから教育委員会と一緒に来てくれと言われた。何か悪いことをしたのではないかと思ったが、心当たりはなかった。教育委員会に行くと、ホストマザーから癌で母親を亡した子を預かるということことを聞いた。その子8歳の女の子で父親もおらず、ホストマザーが育てるということになったことを聞いた。小さい子であるし、勉強の妨げになったりするかもしれない、だから、私にホストファミリー変えるかどうか聞かれた。しかし、私はこの時変えないと言った。留学が終了する最後までホストマザーといたいという思いがあった。それに一人増えてもなんとも思わなかったからでもある。そして、1週間後その女の子がやってきた。落ち込んでいるのかもしれないと勝手に思っていたが、そんなこともなく元気な子だった。それから3人で犬の散歩に行ったり、公園に遊びにいったり、映画を見行ったりもした。楽しかった。そして5月の下旬ごろの話だったと思う。ホストマザーからホストファミリーを変えなければならないことを伝えられた。悲しかったが、仕方がないのかもしれないと諦めホストファミリーを変えることにした。お別れになる前に一緒に映画をみることや散歩をするなどいろんなことをした。そして別れの日が来た。彼女は笑顔で私を見送ってくれた。だから私も笑顔で返した。ホストマザーは自分が学校に通い始めたとき、英語に慣れない自分に宿題を手伝ってくれたり、会話の練習相手になってくれたりした。レストランに行ったときには英語がわからない自分に一生懸命わかるように説明してくれた。私はホストマザーに感謝の気持ちでいっぱいだ。ありがとう。あれからもうすぐ2年経つ。私は現在関西の大学へ通っている。大学内には多くの留学生も存在し、街にも外国人は多くいる。大学での英語の授業では「発音がきれい」など言われたり、電車に乗っているときなど時々英語で話をかけられたりすることがある。そんなとき普通に緊張するが、留学のときの経験を活かして英語で返している。会話が成り立つと気持ちがいい。大学生活でさらに英語力を上げていきたい。

難波三津子様 *letter from LA* 

LA龍馬会会長の飯沼星光(91才)です。メール頂きながら返信が遅くなり失礼致しました。Canadian Academy Setagayaの主旨・活動、龍馬プロジェクト等ご活躍されて又梶原町の町興しプロジェクトと幅広くご活躍の様子頭が下がります。当地ロスアンゼルス龍馬会は創立10周年祝賀会を今年2月に橋本邦健全国龍馬社中会長をはじめ20名の龍馬会のメンバーが日本から参加して頂き、盛大に催すことが出来、改めて龍馬精神を継承し、日系社会に貢献してまいる主旨を新たに致しました。10周年記念参加者の写真ご覧になってください。真ん中に座っている老夫婦が飯沼夫妻です。LA龍馬会のメンバーは毎年日本で催される全国龍馬ファンの集い龍馬大会に10名～15名参加しております。今年の大会は高知であります。LA龍馬会のメンバー8名は大会前に高知県西部四万十をはじめ梶原町を訪問、梶原町龍馬会のメンバーと親睦会を催す予定です。難波様が梶原町の町おこしプロジェクトにも関わって居られる様で頭が下がります。龍馬会参加後10月25～30日まで東京に滞在いたしますので、お会い出来ることを楽しみにしております。 LA龍馬会会長 飯沼星光



梶原町が「ジビエカー」全国初導入

移動先で捕獲獣の解体などができ
捕獲有害獣を活用



2011～2020年

◎郷土料理、観光地、温泉などのハード資産。それに、風土、歴史、人というソフト資産を『梶原人のココロ』ブランドとして、交流・観光旅行の新しいスタイルを提案します。

◎『梶原人のココロ』のブランド化により、従来の世界遺産観光より深く、近く、体感する、新しい観光モデルを世界に発信します。

◎「また、逢いたい。戻りたい。」と感じる民泊体験で、リピーターを増やし、中・長期にわたる雲の上の町・梶原町の持続型観光産業に発展させます。

『梶原人のココロ』を体感する交流イベント

スタディー・ツアー型インバウンド観光

*脱藩啓発映画とトークショー *映画の日 at ゆすはら座



隈研吾氏デザイン

ゆすはら複合福祉施設平成30年3月いよ OPEN!!

第1部 消すな球音 過疎の町 救った力 高校野球 新世紀



愛媛県との境にある、雲の上の町。高知県梶原町。標高1455mの四国カルストを擁し、現在の人口は約3600人。半世紀で半減するスピードで過疎化が進んでいたこの町を、高校野球が救った。町内唯一の高校である1934年創立の県立梶原高に初の野球部が誕生したのは2007年。高校生の町外流出は加速度的に進行し、06年の新入生は定員80人に対して17人で、統廃合の危機を迎えていた。その流れに少しでも歯止めをかけられないかと、校長だった横川剛史さん(63)が生徒からの要望を受け、野球部設立を計画。当時の中越武義町長(故人)も「野球部を作るなら金は出す」と支援を申し出た。高校が消えれば、過疎化に拍車がかかることは必至。町も野球部にいちろの望みをかけた。



高校野球の発展に尽くした指導者を日本高校野球連盟と朝日新聞社が表彰する育成功労賞が、梶原の監督の横川恒雄さん(65)に贈られた。

高校野球は、我が町のチームとして地域に根付いたことで人気スポーツとして発展してきた。それだけに、少子化や都市への人口集中など日本社会に表出しているさまざまな問題は、高校野球にも色濃く影響を与えている。18年には選抜大会が90回、全国選手権大会が100回の節目を迎える。さらに100年、200年と新しい世紀を紡いでいくには何が必要なのか、年間企画で考えていく。

【2017年7月12日毎日新聞の記事より】

率直に言えば、大変な1学期でした。来た当初はすべてが初めてで、頼る親も先生もいない、いつも一緒にいた友達もいないなかで、初めての海外、言語も違い、環境も違って本当に戸惑う毎日でした。ニュージーランドに来る前は、自分は英語ができる方だと思い込んでいて、どうにかやっていけるだろうという1謎の自信がありました。来た途端、全く相手の言っている事がわからないし、自分が何が言いたいのかもわからないし、ホストシスターともうまく意思疎通ができずにいざこざになったりと、本当に自分に呆れる毎日で、自分に自信も無かったし、帰ろうかなと思ったこともありま



した。そんな時期が2ヶ月くらい続いた時、とりえず勉強しようという気持ちになりました。最初の方は、自分が何に向かっているのかもわからなかったで、とりえずひたすら単語を覚えました。本当に自分の英語力は伸びているのかが心配でしたが、勉強を始めて3週間頃にはホストマザーに、最近英語力伸びたねと言われました。あの時の嬉しさは今でも覚えているくらい嬉しかったです。そこから私の留学生活が変わってきました。完璧に相手の言っている事が分かっていたわけではありませんでしたが、なんとなく分かるようになって、会話ができるようになって、自分に自信ができました。また、もっと相手の事を分かりたいと思うようになり、勉強をしたいという気持ちになりました。学校生活も楽しいと思えるようになってきました。そんな時に中国人の友達ができました。その子は、私が英語で伝えようとしている時に、必死に聞いてくれたり、数学を教えてくれたりと、すごく良い友達になれました。本当は、自分的に中国人と聞いてあまり良いイメージを持っていなかったのですが、それは自分が勝手に作った、偏見なんだと改めて感じました。また、ホストシスターが韓国人だったのですが、その人とうまくいかなかった時は、韓国の全ての人を、すごく気が強くて、わがままと思ってしまう。そんな時に、同じクラスの韓国の人が、私がクラスの和に入れなかった時に助けてくれたり Aucklandを案内してくれたり色々助けてくれました。私は思い込みで怖いなと思いました。なぜなら、もしホストシスターだけをすべての韓国人の性格と思っていたら、韓国人に話しかけたいとも思わなかったし、日本に帰って、間違った情報を広げていたかも知れなかったからです。十人十色は日本も海外も一緒だなと思いました。その子と Aucklandに行っていた時に、一人の日本人の人が声をかけてきました。その人は60歳で、家族を日本に残してニュージーランドに来て、孫の世代に戦争を体験させたくないから憲法改正の討議を、英語で世界に発信したいから、来たと言っていました。私はすごいなと思いました。留学生に60歳の人が出たこともびっくりしたし、何より目標が高いし、行動力がすごいなと思いました。自分もまだまだ負けてられないなと感じました。その話を聞いた後に、自分は将来何がしたいんだろうと考えた時に、やっぱり、高知県の良さを海外に発信したいなと思いました。そう思った理由は、友達に日本の事を聞いた時に、みんな口を揃えて、東京が京都しか知らないと言っていました。高知県は食べ物美味しく、よさこいが行われたり、田舎ですが、人が優しくったりといい事尽くしなのに、それを知られていない事がすごく残念でした。また、ニュージーランドに来たからこそ高知の良さが改めて実感しました。まだ将来の夢が確定したわけではありませんが、世界に高知県の良さを伝える仕事につきたいと考えています。色々あった1学期でしたが、1学期終了後のトリップにも参加し、すごく充実した日々でした。また、ドイツの子とも友達になれて、リスニング力がまた上がったかなと思いました。これからも、多くの友達を作って世界の文化に触れたいと思っています。残りの留学生生活を悔いの残らないように、精一杯頑張ります。

農家民宿がわい(ゆうちゃんち)

手作り囲炉裏が自慢の宿です。四方十の農村の美しい風景に心とませたり農業体験を通じ農家の日常を体験する事ができます。
〒785-0635高知県高岡郡梶原町川井7206
中越 計清・優子 Tel.0889(65)0806

ナイフウェアグループCEO Kevin Kent 

Knife Wear
Knifewear Group Head Office
1316 9 Avenue SE
Calgary, Alberta
T2C 0T3, Canada

日本製包丁輸入及び小売販売各種研ぎ

輸入先
土佐伝統工芸「影浦工房」
土佐の匠 影浦賢
(高知県認定 熟練技能・技術保持者保持者)